

平成 1 9 年度
鳥栖市における石綿の健康リスク調査報告書（案）

平成 2 0 年 5 月
鳥栖市

一般環境経由による石綿ばく露健康リスク調査（鳥栖市）

目次

1. 目的	2
2. 内容	2
(1) 調査対象者	2
(2) 調査内容	2
(ア) 鳥栖市保健センターにおける確認	2
(イ) 精密診断	2
(ウ) 経過観察	3
(エ) データの解析	3
3. 結果	3
(1) 協力者数	3
(2) 協力者の医学的所見・ばく露歴の整理	4
4. 考察	4
5. 今後の予定	5
6. 参考資料	
・問診票	
・指定医療機関への紹介状	
・受診券	
・指定医療機関名簿	
・鳥栖市石綿健康対策専門委員会名簿	
(各資料を添付)	

1. 目的

一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性があった鳥栖市において、石綿ばく露の可能性があったと思われる周辺住民に対して、問診、胸部X線検査、胸部CT検査等を実施することにより、石綿ばく露の医学的所見である胸膜プラーク等の所見の有無や健康影響との関係に関する知見を収集し、石綿ばく露の地域的広がりや、石綿関連疾患の発症リスクに関する実態把握を行うとともに、周辺住民への健康増進に資する。

2. 内容

(1) 調査対象者

昭和33年～61年までに鳥栖市に居住歴があり、一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性のある者を調査対象者として、市広報等により募集した。また、平成17年度アスベスト健康相談等を受診した結果、「要精密検査」と判定された者と平成18年度石綿健康リスク調査受診者全員に別途案内状を送付した。なお、上記以外の者も石綿ばく露の可能性があれば調査対象者に加えた。

(2) 調査内容

(ア) 鳥栖市保健センターにおける確認

鳥栖市保健センターにおいて、応募者に対し、保健師立ち会いの下、問診票を用いた問診を実施した。問診の結果、石綿ばく露の可能性が認められた者に対し、本調査事業の説明、調査協力に対する同意をとり、調査登録台帳に登録を行った。胸部X線検査、胸部CT検査等の精密診断を実施するに当たっては、鳥栖市が指定した医療機関への紹介状及び受診券を発行した。

なお、既に他の検診を受診している者が、本調査に加わる場合については、鳥栖市保健センターにおいて、保健師立ち会いの下、問診を行い、上記と同様の手続きを行った。この時、既に胸部CT検査など精密診断を受けている場合は、本人の承諾を得て、実施医療機関より精密診断の結果等を受領した。

(イ) 精密診断

調査対象者は、鳥栖市が発行した紹介状及び受診券を指定医療機関（今村病院、古賀病院、やよいがおか鹿毛病院、国立病院機構東佐賀病院、久留米大学病院、古賀病院21）に提出し、受診した。ここでは、胸部X線検査、胸部CT検査（原則数年に1回。既に他の医療機関で受診した場合はそのデータを活用し、初回時は省略。）、病理組織検査（中皮腫、石綿による肺がんが疑われた場合）、石綿繊維・石綿小体の測定（石綿による肺がんが疑われた場合）を行った。

読影は、鳥栖市石綿健康対策専門委員会において行い、医学的所見を確認の上、次のとおり振り分け、検査の結果を調査対象者に通知した。

【医学的所見の振り分けの考え方】

- ① 石綿健康被害救済法の対象疾病となった者は、その時点で調査終了とする。
- ② 石綿ばく露の可能性のある医学的所見（以下、“所見”と略す）が認められる者のうち、医療の必要がないと判断された者は、経過観察とする。
- ③ “所見”が認められる者のうち、医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後に経過観察者に含めることは妨げない。
- ④ “所見”が認められない者のうち、医療の必要がないと判断された者は、経過観察とする。
- ⑤ “所見”が認められない者のうち、他の疾病により医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後に経過観察者に含めることは妨げない。

上記②または④と判断された者については、1年後に受診勧奨を行うとともに、受診券を発行した。なお、①、③及び⑤の対象者については、できる限り調査対象者に同意を得た上で、治療経過等の把握に努めた。

(ウ) 経過観察

前記【医学的所見の振り分けの考え方】で②または④と判断された者は、鳥栖市保健センターの指導の下、受診券の発行を受け、年1回指定医療機関において精密診断（胸部X線検査、必要に応じ胸部CT検査、病理組織検査等）を受診する予定。なお、精密診断の内容及び必要性の可否は、前回の所見等を総合的に勘案して判断するものとする。ただし、主治医の指示などにより1年未満に実施した胸部X線検査の結果、要精密検査となった場合は、それ以降の一連の検査について、本事業の対象範囲として取り扱った。

(エ) データの解析

上記(ア)～(ウ)の一連の作業について、鳥栖市石綿健康対策専門委員会において、医学的な観点からの分析や検討等を行った。

3. 結果

(1) 協力者数

問診・胸部X線検査、胸部CT検査まで受診・資料提供した者は 192名
いた。

このうち、

- | | |
|-------------------------------|------|
| ① 昭和33～61年に鳥栖市に居住していた者 | 192名 |
| ② 上記①のうち、現在も市内に居住している者 | 185名 |
| ③ 平成17年度の市の石綿健康相談等受診者(①の重複含む) | 38名 |
| ④ 平成18年度の石綿健康リスク調査受診者(①の重複含む) | 83名 |
| ⑤ 平成19年度に初めて石綿健康リスク調査を受診した者 | 109名 |

※①の受診状況 医療機関別・・・・・・・・添付1

年齢構成別、受診内容別受診・・・・・・・・添付2

(2) 協力者の医学的所見・ばく露歴の整理

協力者の医学的所見・ばく露歴について、A～C表に整理し、取りまとめた。

A表 問診・胸部X線検査・胸部CT検査まで受診し、資料提供した者（添付）

B表 協力者のうち昭和33～61年に鳥栖市に居住していた者192人（添付）

C表 192人のクロス表（添付）

D図 ばく露分類が「オ（その他）」の者に関するプロット図

4. 考察

今回の環境経由による石綿ばく露健康リスク調査において昭和33年から61年に鳥栖市に居住していた者が192人受診している。そのうち石綿に起因することが明らかな、胸膜プラークの所見がある者が32人（16.7%）と一番多かった。

この32人の職歴をみると直接石綿を取り扱っていた職歴がある者が21人、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者が4人、主に家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者が4人であり、その他（ばく露の可能性が特定できない者）が3人いた。

今回の調査では胸膜プラークの所見率は、直接石綿を取り扱っていた職歴がある者が28.0%（21/75）、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者が19.0%（4/21）、職域以外で石綿取り扱い施設や吹き付け石綿の事務室などに立ち入り経験があるものが0%（0/22）、その他（ばく露歴が確認できない者）が6.5%（3/46）で、直接石綿を扱っていた者に多くみられた。

びまん性胸膜肥厚の所見のある者は0人であった。

肺野間質影が認められるものは8人で、直接職歴があった者は3人おり、うち2人に胸膜プラークの所見が認められた。また、ばく露歴が確認できない者が2人おりフォローする予定である。

腫瘤状陰影が認められるものが5人おり、全員かかりつけの病院で今後定期検査による経過観察の予定である。5人のうち2人は肺野間質影が認められる。またこの5人の内3人は19年度に初めて受診した人で、今回胸部CT検査を行なったことで早期に陰影が発見されたと思われる。

またばく露歴が確認できない者のプロット図について胸膜プラークの所見が見られ者のプロットが3プロットあるが、所見が見られない者のプロット数と比較しても「プロット数」が少ないことに加え、石綿取り扱い施設と一定程度の距離が認められることから今回の調査結果から石綿取り扱い施設との関係を明確に確認することはできなかった。

今回の健診に平成18年度に受診し、経過観察となった151人中83人が受診しており、不変70人、新所見11人、増悪2人となっている。

5. 今後の予定

次年度以降においては、新規の調査対象者の募集を行うとともに、前年度受診した者については経過観察を進め、データの更なる蓄積を図っていく予定である。

6. 参考資料

- ・ 問診票
- ・ 指定医療機関への紹介状
- ・ 受診券
- ・ 指定医療機関名簿
- ・ 鳥栖市石綿健康対策専門委員会名簿
(各資料を添付)

添付1

指定医療機関別受診者状況について

指定医療機関名	合計		男		女	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
医療社団法人 如水会今村病院	60	31.3%	31	16.1%	29	15.1%
古賀病院	37	19.3%	21	10.9%	16	8.3%
医療法人清明会 やよいがおか鹿毛病院	35	18.2%	21	10.9%	14	7.3%
独立行政法人 国立病院機構 東佐賀病院	10	5.2%	5	2.6%	5	2.6%
久留米大学病院	15	7.8%	7	3.6%	8	4.2%
医療法人天神会 古賀病院21	35	18.2%	18	9.4%	17	8.9%
合計	192	100%	103	53.6%	89	46.4%

添付2 年齢階層別ならびに検査項目別受診者数

年齢区分	受診内容	合計		男		女	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
29歳以下	問診+胸部X線+胸部CT	1		0		1	
	問診+胸部X線のみ	0		0		0	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	0		0		0	
	計	1		0		1	
30～39歳	問診+胸部X線+胸部CT	4		1		3	
	問診+胸部X線のみ	1		0		1	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	1		1		0	
	計	6		2		4	
40～49歳	問診+胸部X線+胸部CT	11		4		7	
	問診+胸部X線のみ	0		0		0	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	0		0		0	
	計	11		4		7	
50～59歳	問診+胸部X線+胸部CT	21		8		13	
	問診+胸部X線のみ	3		1		2	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	2		1		1	
	計	26		10		16	
60～69歳	問診+胸部X線+胸部CT	67		38		29	
	問診+胸部X線のみ	13		7		6	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	0		0		0	
	計	80		45		35	
70～79歳	問診+胸部X線+胸部CT	48		32		16	
	問診+胸部X線のみ	10		5		5	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	0		0		0	
	計	58		37		21	
80～89歳	問診+胸部X線+胸部CT	10		4		6	
	問診+胸部X線のみ	3		3		0	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	1		0		1	
	計	14		7		7	
90～99歳	問診+胸部X線+胸部CT	0		0		0	
	問診+胸部X線のみ	0		0		0	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	0		0		0	
	計	0		0		0	
合計	問診+胸部X線+胸部CT	162		87		75	
	問診+胸部X線のみ	30		16		14	
	問診+胸部CTのみ	0		0		0	
	問診のみ(ばく癌可能性なしと判断)	4		2		2	
	計	196		105		91	

※平成20年3月31日現在

※問診+胸部X線のみ: 胸部CTは他医療機関で実施済みにより画像コピーを取得

{ 受診した者 192人
 問診をしたが対象にならなかった者 4人

ばく露歴と医学的所にかかる集計表(鳥栖市)

A表:2007年度受診者

整理番号	性別	受診状況				2006年度所見	2007年度所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア. 直接職歴あり	イ. 間接職歴あり	ウ. 家庭内ばく露あり	エ. 立入・屋内環境ばく露あり	オ. その他	ばく露歴分類案	備考(H19年度所見)2006年度との具体的比較	備考(終了理由)
		H17	H18	H19														
1	男	○		○	なし	新所見	○	②	なし	●	●				●	ア	なし→新所見②	
2	男	○	○	○	⑩	増悪	○	⑩	なし	●	●				●	ア	右下肺結節影(⑩→増悪⑩)	
3	男		○	○	⑧	不変	○	なし	なし	●	●					ア		
4	男	○	○	○	なし	不変	○	なし	なし	●	●					ア		
5	男		○	○	⑧	不変	○	⑧	なし	●		●	●	●	●	ア		
6	男			○	—	なし	○	なし	なし	●		●			●	ア		
7	男	○	○	○	なし	不変	○	なし	なし	●		●			●	ア		
8	女		○	○	⑩	不変	—	なし	なし	●		●			●	ア		
9	男		○	○	なし	新所見	—	⑩	なし	●		●			●	ア	胸腺癒着変わらず(なし→新所見⑩)	
10	男	○	○	○	なし	不変	○	なし	なし	●		●			●	ア		
11	男	○	○	○	③	不変	○	なし	なし	●		●			●	ア	去年の胸腺肥厚ありだが本年度検討結果石綿の可能性は低い	
12	男			○	—	②	○	②	なし	●		●				ア		
13	女		○	○	なし	不変	—	なし	なし	●		●				ア		
14	男		○	○	なし	不変	○	なし	なし	●		●				ア		
15	女		○	○	なし	不変	○	なし	なし	●		●				ア		
16	男	○	○	○	なし	不変	○	なし	なし	●			●	●	●	ア		
17	男		○	○	なし	不変	—	なし	なし	●			●			ア		
18	男	○	○	○	②	不変	○	②	なし	●			●			ア		
19	男			○	—	なし	○	なし	なし	●					●	ア		
20	女			○	—	なし	○	なし	なし	●					●	ア	心不全治療中	
21	女			○	—	②	○	②	なし	●					●	ア		
22	男			○	—	⑩	○	⑩	b	●					●	ア	肺がん治療中	
23	男			○	—	なし	○	なし	なし	●					●	ア	胆石 大動脈弓	
24	男			○	—	なし	○	なし	なし	●					●	ア		
25	女			○	—	なし	○	なし	なし	●					●	ア		
26	男			○	—	なし	○	なし	なし	●					●	ア		
27	男			○	—	なし	○	なし	なし	●					●	ア		
28	男			○	—	②	○	②	なし	●					●	ア		
29	男			○	—	②	○	②	なし	●					●	ア		
30	男			○	—	なし	○	なし	なし	●					●	ア		
31	男		○	○	なし	新所見	○	⑥,⑧	c	●					●	ア	なし→新所見⑥⑧	
32	男	○	○	○	②,⑥	増悪	○	①, ②	なし	●					●	ア	心不全の可能性もあり要医療②⑥→増悪①②	

整理 番号	性別	受診状況			2006 年度 所見	2007年 度 所見	2007 年度 CT	最新の 所見	疾患 名	ア. 直 接露 あり	イ. 間 接露 あり	ウ. 家 庭内ば く露あり	エ. 立 入・屋 内環境 ばく露 あり	オ. そ の他	ばく露 歴分 類案	備考(H19年度所見) 2006年度との具体的 比較	備考 (終了理由)
		H17	H18	H19													
33	男	○	○	○	②,⑩	不変	○	②	なし	●				●	ア		
34	女	○	○	○	②	不変	○	②	なし	●				●	ア		
35	男	○	○	○	②	不変	○	②	なし	●				●	ア		
36	男	○	○	○	⑩	不変	-	⑩	f	●				●	ア	無気肺	
37	女	○	○	○	②	不変	○	②	なし	●				●	ア		
38	男		○	○	②,③	新所見	○	⑩	f	●				●	ア	慢性炎症 (②③→新所見⑩)	
39	男	○	○	○	なし	新所見	○	⑩	f	●				●	ア	肺気腫(なし→新所見 ⑩)	
40	男		○	○	⑧	不変	○	なし	なし	●				●	ア		
41	男		○	○	⑧	不変	○	⑩	なし	●				●	ア	胸膜肥厚	
42	女	○	○	○	なし	不変	-	なし	なし	●				●	ア		
43	男	○	○	○	なし	不変	-	なし	なし	●				●	ア		
44	男	○	○	○	②	新所見	○	②,⑩	なし	●				●	ア	(②→新所見②⑩胸膜 肥厚)	
45	女	○	○	○	なし	不変	-	なし	なし	●				●	ア		
46	男	○	○	○	②	不変	○	②	なし	●				●	ア		
47	女	○	○	○	②	不変	○	②	なし	●				●	ア		
48	男		○	○	なし	不変	○	なし	なし	●				●	ア	平たん化している胸膜炎 か	
49	男			○	-	⑩	○	⑩	f	●					ア	慢性炎症	
50	女			○	-	⑩	○	⑩	f	●					ア	気管支拡張症	
51	男			○	-	②	○	②	なし	●					ア		
52	男			○	-	なし	○	なし	なし	●					ア		
53	男			○	-	なし	○	なし	なし	●					ア		
54	男			○	-	なし	○	なし	なし	●					ア		
55	男			○	-	なし	○	なし	なし	●					ア	肺気腫	
56	男			○	-	⑩	○	⑩	なし	●					ア	小結節影	
57	女			○	-	⑩	○	⑩	なし	●					ア	気管支拡張症	
58	男			○	-	⑩	○	⑩	f	●					ア	COPD 肺気腫	
59	男			○	-	なし	○	なし	なし	●					ア		
60	女			○	-	②,⑤,⑥	○	②,⑤,⑥	c	●					ア	石綿肺	H20.2労災 健康 管理手帳取得によ り終了
61	女			○	-	なし	○	なし	なし	●					ア		
62	男			○	-	なし	○	なし	なし	●					ア		
63	男		○	○	なし	不変	-	なし	なし	●					ア		
64	男		○	○	なし	新所見	○	⑩	f	●					ア	胸膜下小結節	

整理 番号	性別	受診状況			2006 年度 所見	2007年 度 所見	2007 年度 CT	最新の 所見	疾患 名	ア. 直 接職歴 あり	イ. 間 接職歴 あり	ウ. 家 庭内ば く露あり	エ. 立 入・屋 内環境 ばく露 あり	オ. 其 他	ばく露 歴分 類案	備考(H19年度所見) 2006年度との具体的 比較	備考 (終了理由)
		H17	H18	H19													
65	男	○	○	○	なし	不変	○	なし	なし	●					ア		
66	男		○	○	なし	不変	-	なし	なし	●					ア		
67	男		○	○	なし	不変	-	なし	なし	●					ア		
68	女		○	○	②, ⑩	不変	○	②	なし	●					ア		H20.2月労災健康 管理手帳取得によ り終了
69	男		○	○	なし	新所見	○	⑩	f	●					ア	陳旧性炎症	
70	男		○	○	なし	不変	○	なし	なし	●					ア		
71	男		○	○	なし	不変	-	なし	なし	●					ア		
72	男	○	○	○	②, ⑩	不変	-	②	なし	●					ア		
73	男		○	○	②, ③	不変	○	②	なし	●					ア		
74	男		○	○	②	不変	○	②	なし	●					ア		
75	男		○	○	②, ③, ⑩	新所見	○	②, ⑥	なし	●					ア	②, ③, ⑩→新所見②, ⑥	
76	男			○	-	なし	○	なし	なし		●	●	●	●	イ		
77	女			○	-	なし	○	なし	なし		●	●		●	イ		
78	女			○	-	⑩	○	⑩	なし		●	●		●	イ	肺内結節影、副腎腫瘍 疑	
79	女			○	-	なし	○	なし	なし		●	●		●	イ		
80	女		○	○	なし	不変	○	なし	なし		●	●			イ		
81	女			○	-	⑩	○	⑩	f		●			●	イ	中葉舌区症候群	
82	男			○	-	②	○	②	なし		●			●	イ		
83	男			○	-	なし	○	なし	なし		●			●	イ		
84	男			○	-	⑩	○	⑩	f		●			●	イ	肺気腫 右上葉切除後	
85	男			○	-	②	○	②	なし		●			●	イ		
86	女			○	-	なし	○	なし	なし		●			●	イ		
87	男			○	-	⑥, ⑧	○	⑥, ⑧	なし		●			●	イ	腫瘍	
88	男			○	-	なし	○	なし	なし		●			●	イ		
89	男	○	○	○	なし	不変	-	なし	なし		●			●	イ	心臓肥大	
90	女	○	○	○	②	不変	○	②	なし		●			●	イ		
91	男		○	○	⑩	不変	○	なし	なし		●			●	イ		
92	男	○	○	○	②	不変	-	②	なし		●			●	イ		
93	男			○	-	なし	○	なし	なし		●				イ		
94	男			○	-	なし	○	なし	なし		●				イ		
95	女			○	-	なし	○	なし	なし		●				イ		
96	女		○	○	⑩	不変	-	なし	なし		●				イ		

整理 番号	性別	受診状況			2006 年度 所見	2007年 度 所見	2007 年度 CT	最新の 所見	疾患 名	ア. 直 接 疑 あり	イ. 間 接 疑 あり	ウ. 家 庭内ば く露あり	エ. 立 入・屋 内環境 ばく露 あり	オ. そ の 他	ばく露 歴分 類案	備考 (H19年度所見) 2006年度との具体的 比較	備考 (終了理由)
		H17	H18	H19													
97	女			○	—	⑩	○	⑩	なし			●	●	●	ウ	瘢痕性変化	
98	女	○	○	○	②	新所見	○	②,⑥	なし			●	●	●	ウ	②→新所見②, ⑥	
99	女		○	○	⑩	不変	○	なし	なし			●	●		ウ	古い炎症性瘢痕問題な し不変	
100	女	○	○	○	②	不変	—	②	なし			●	●		ウ		
101	女			○	—	なし	○	なし	なし			●	●		ウ		
102	女			○	—	⑩	○	⑩	f			●		●	ウ	陳旧性炎症	
103	女			○	—	なし	○	なし	なし			●		●	ウ		
104	男			○	—	⑩	○	⑩	f			●		●	ウ	肺尖部のう胞	
105	女			○	—	⑩	○	⑩	f			●		●	ウ	気管支拡張症	
106	男			○	—	⑩	○	⑩	f			●		●	ウ	陳旧性炎症	
107	女			○	—	②	○	②	なし			●		●	ウ		
108	女			○	—	なし	○	なし	なし			●		●	ウ		
109	女			○	—	⑩	○	⑩	f			●		●	ウ	気管支拡張症	
110	女			○	—	なし	○	なし	なし			●		●	ウ		
111	女			○	—	⑩	○	②,⑩	なし			●		●	ウ	間質影アスベストとは関 係ないか	
112	女			○	—	⑩	○	⑩	なし			●		●	ウ	ブランクなし瘢痕 経 過観察	
113	女	○	○	○	⑥	不変	○	⑥	f			●		●	ウ		
114	女	○	○	○	なし	不変	—	なし	なし			●		●	ウ		
115	女		○	○	なし	不変	—	なし	なし			●		●	ウ		
116	女		○	○	なし	不変	—	なし	なし			●		●	ウ		
117	男		○	○	なし	不変	○	なし	なし			●		●	ウ		
118	女			○	—	なし	○	なし	なし			●			ウ		
119	女			○	—	⑧	○	⑧	なし			●			ウ	肺がん疑経過観察中	
120	女			○	—	なし	○	なし	なし			●			ウ		
121	女		○	○	なし	新所見	○	⑩	f			●			ウ	気管支拡張症 (なし→新所見⑩)	
122	女		○	○	⑩	不変	—	なし	なし			●			ウ		
123	男		○	○	⑩	不変	—	なし	なし			●			ウ		
124	女		○	○	なし	不変	○	なし	なし			●			ウ		
125	男			○	—	⑩	○	⑩	なし				●	●	エ	陳旧性炎症 食道ヘル ニア	
126	女			○	—	⑩	○	⑩	f				●	●	エ	気管支拡張症	
127	女			○	—	なし	○	なし	なし				●	●	エ		
128	女			○	—	なし	○	なし	なし				●	●	エ		

整理 番号	性別	受診状況			2006 年度 所見	2007年 度 所見	2007 年度 CT	最新の 所見	疾患 名	ア. 直 接職業 あり	イ. 間 接職業 あり	ウ. 家 庭内ば く露あり	エ. 立 入-屋 内環境 ばく露 あり	オ. 其 他	ばく露 歴分 類案	備考(H19年度所見) 2006年度との具体的 比較	備考 (終了理由)
		H17	H18	H19													
129	女			○	—	なし	○	なし	なし				●	●	工		
130	女			○	—	なし	○	なし	なし				●	●	工		
131	女			○	—	なし	○	なし	なし				●	●	工		
132	男			○	—	なし	○	なし	なし				●	●	工		
133	男	○	○	○	なし	不変	—	なし	なし				●	●	工	心拡大	
134	男		○	○	なし	不変	○	なし	なし				●	●	工		
135	女		○	○	なし	不変	—	なし	なし				●	●	工		
136	女			○	—	㊸	○	㊸	なし				●		工	肺がん疑経過観察中	
137	女			○	—	なし	○	なし	なし				●		工		
138	女			○	—	㊸	○	㊸	なし				●		工	気管支拡張症	
139	女			○	—	なし	○	なし	なし				●		工		
140	男			○	—	なし	○	なし	なし				●		工		
141	女			○	—	なし	○	なし	なし				●		工		
142	男			○	—	なし	○	なし	なし				●		工		
143	男			○	—	なし	○	なし	なし				●		工		
144	女			○	—	なし	○	なし	なし				●		工		
145	男			○	—	㊸	○	㊸	なし				●		工	肺内炎症跡	
146	男		○	○	なし	不変	—	なし	なし				●		工		
147	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
148	男			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
149	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
150	女			○	—	㊸	○	㊸	f					●	才	気管支拡張症	
151	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
152	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
153	男			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
154	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
155	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
156	男			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
157	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		
158	男			○	—	㊸	○	㊸	なし					●	才	胆石 有経過観察中	
159	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才	甲状腺腫瘍	
160	女			○	—	なし	○	なし	なし					●	才		